

# 日本スポーツ社会学会第31回大会 大会案内（第2報）

（会場：東海大学 湘南キャンパス）

## 大会参加を予定されている皆様へ

引き続き、対面での大会開催を基調として準備を進めています。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、昨年度同様、オンライン開催へと切り替えることもあります。とはいえ、判断を先送りし続けることも皆様にご不便をおかけすることになるため、実行委員会としては開催形式の最終判断を【2022年2月初旬】と定めさせていただきます。しかしながら、急激な状況の変化に応じて柔軟な対応が求められる可能性がある点は、予め御了解を賜りたく存じます。

詳細につきましては、本案内の「9. オンライン開催への切り替えについて」もご確認願います。皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

### 1. 開催期間

2022年3月19日（土）・20日（日）

### 2. 会 場

東海大学 湘南キャンパス 2号館・14号館

[https://www.u-tokai.ac.jp/uploads/2021/02/shonan\\_campus.pdf](https://www.u-tokai.ac.jp/uploads/2021/02/shonan_campus.pdf)

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

○アクセス方法

小田急線「東海大学前」駅

①徒歩約15分

②『秦野駅行き』『下大槻団地行き』バス（約5分）で「東海大学北門」下車すぐ

○JR 東海道線「平塚」駅

①『東海大学行き』または『秦野駅行き』バス（約30分）で「東海大学正門前」下車徒歩約5分

○宿泊関係・・・宿泊の斡旋はしておりません。

### 3. 主 催

日本スポーツ社会学会 <http://www.jsss.jp/>

### 4. 日 程

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
19日 (土)		受付 10:00開始	理事会 10:30-			一般発表1 13:00-15:00		実行委員会企画 15:20-16:50	総会 17:00- 18:00	
			学生フォーラム 10:30-11:40							
20日 (日)		一般発表2 9:30-12:30				研究委員会企画 13:30-16:00		ク ロ ー ジ ン グ		

ただし、日程は発表演題数、企画シンポジウム等の都合により変更になる場合があります。

※新型コロナウイルス感染症予防のため、懇親会は実施いたしません。

## 5. 大会までの主なスケジュール

事 項	締切日
一般研究発表申込	2022年1月4日(火) (←2021年12月24日(金)より延長)
大会参加早期申込(早割)	2022年1月25日(火)
一般研究発表抄録提出締切	2022年1月31日(月)

## 6. 大会参加申し込み

日本スポーツ社会学会第31回大会ホームページ(<https://spsociology.org/>)の「参加申込」ページから、その指示に従って必要事項を記入の上、送信してください。大会参加費の早期割引を受けるためには、ホームページ上の「申し込み手続き」及び「入金」がともに、2022年1月25日(火)までに完了している必要があります。

【参加申込先】 第31回大会ホームページ(<https://spsociology.org/>)

### 【大会参加費】

参加申込みと同時に、大会参加費を大会実行委員会口座までご送金ください。専用の振込用紙は郵送いたしませんのでご了承ください。対面開催、オンライン開催、いずれの形式においても大会参加費は同額です。なお、年会費の納入状況、送金先等に関する情報は学会事務局([jssjimukyoku@gmail.com](mailto:jssjimukyoku@gmail.com))にご照会下さい。

種 別	早期割引あり	通常(早期割引なし)
正会員	3000円	4000円
学生会員	1000円	
非会員・一般	4000円	
非会員・学生	1000円	

### 【大会参加費振込先】

振替口座 00970-9-334985(他行からの振込の場合は「ゆうちょ銀行、〇九九店、当座、0334985」)

・口座名称:「日本スポーツ社会学会大会実行委員会」

口座名称のカタカナ表記について、文字数の制限で「ニホンスポーツシャカイガツカイタイカイジッコウインカ」になっています。

## 7. 一般研究発表申し込み

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、たとえ大会直前であってもオンライン開催への切り替えがあり得ます。一般発表を申し込む場合には、オンライン発表(オンデマンド形式を予定)への対応も考慮いただき、お申込み願います。オンライン開催への切り替えのタイミング、発表形式、切り替え後のスケジュール等の詳細については「9. オンライン開催への切り替えについて」を参照願います。

(1)発表申込締切日 2022年1月4日(火) (←2021年12月24日(金)より延長)

大会ホームページ(<https://spsociology.org/>)の「申し込み(参加・発表)」ページから、その指示に従って必要事項を記入し、送信していただくことで、発表申込みができます。

発表内容については、上記ホームページの該当箇所に、1200～1600 字程度(英文の場合は 300 ワード程度)の概要を記入し、送信してください。

#### (2)一般研究発表の資格に関する注意事項

「日本スポーツ社会学会大会開催に関する規定」第5条による、一般研究の発表者の資格は以下の通りです。

- 1) 発表者および共同研究者は、日本スポーツ社会学会会員であること。
- 2) 発表者および共同研究者は、その年の年会費を納めていること。
- 3) 発表者は大会参加費を納めていること。
- 4) 大会に参加しない共同研究者は、大会参加費を納める必要がないこと。

※ 発表者は、「年会費」「大会参加費」の納入についてご確認ください。未納の場合は発表できません。納入の確認が必要な場合、年会費については「会員情報管理システム SOLTI」でご確認いただき、大会参加費については学会大会実行委員会へお問い合わせください。

・年会費…会員情報管理システム<SOLTI> <https://service.gakkai.ne.jp/solti-asp-member/mypage/JSSS>

・大会参加費 …大会実行委員会メールアドレス [jsss31th@gmail.com](mailto:jsss31th@gmail.com)

※学会事務局メールアドレス [jsssjimukyoku@gmail.com](mailto:jsssjimukyoku@gmail.com)

#### (3)発表抄録原稿の提出締切日 2022年1月31日(月)

発表申込みをしていただいたのち、研究委員会にて審査がおこなわれます。**申込時、概要の字数・形式は必ず守ってください**。審査を経て、学会発表が許可されたものについては、発表抄録の原稿を提出していただきます。

発表抄録原稿用テンプレートは、大会HPからダウンロードできます。書式を利用するには、Microsoft Office Word 2013(あるいはそれ以上の年式)が必要です。テンプレートの書式に従って作成いただいた原稿は、2022年1月31日(月)までに、以下のメールアドレス宛に添付ファイル送信してください。

発表抄録原稿受付メールアドレス [jsss31th@gmail.com](mailto:jsss31th@gmail.com)

※ 件名には「日本スポーツ社会学会発表抄録」と記載してください。

#### (4)一般研究発表に関する注意事項

一般研究発表の時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分です。発表の際に必要な機器がある場合(PCおよびプロジェクター以外)は、発表申込みの際に、当該箇所にその旨を記載して、申し出てください。パワーポイントによる発表を希望する方は、USBメモリにデータを持参してください。当日、発表資料を配付する場合は、各自で 70 部以上を持参してください。

#### 8. 昼食について

現在、学内の食堂施設の稼働状況を大学に確認中です。詳細が判り次第、HP 等でお知らせ致します。

#### 9. 開催形式の変更の可能性とスケジュールについて

**新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、対面開催からオンライン開催へ切り替える判断をし**

ます。また、その可能性が見込まれる場合、一般発表はオンデマンド形式へと変更になるため、発表者の皆様にはその対応をお願いすることになります。具体的にはオンデマンド形式の発表資料の提出をお願いさせていただきます。以下、主なスケジュールです。

一般研究発表 抄録提出締切	2022年1月31日(月)
開催形式の最終判断	2022年2月初旬
<u>以下、オンライン開催に切り替わった場合のスケジュール</u>	
オンデマンド発表資料の提出依頼	2022年2月中旬
上記発表資料の提出締切	2022年3月5日(土)
一般発表の視聴期間	2022年3月19日(土)～25日(金)
質疑への回答閲覧期間	2022年3月30日(水)～4月5日(火)

#### 〈オンライン開催時の一般研究発表に関する注意事項〉

一般研究発表の時間は20分です。発表方法はオンデマンド方式で以下の①②のいずれかとします。

- ①音声付きの動画(レジュメなどの資料の配布は選択いただけます)
- ②レジュメ(PDF)などの配布資料に音声を付ける(音声と別々に提出可)

なお、音声付き動画の作成方法等につきましては、発表許可決定後にマニュアルを配付いたしますが、資料作成でお困りの方は、大会事務局にご相談ください。

#### 10. 学会大会実行委員会について

- 実行委員長/ 高尾 将幸(東海大学体育学部)
- 実行委員/ 秋吉 遼子(東海大学体育学部)
- 実行委員/ 大津 克哉(東海大学体育学部)
- 実行委員/ 吉原 さちえ(東海大学体育学部)
- 実行委員/ 小澤 考人(東海大学観光学部)
- 実行委員/ 植田 俊(東海大学国際文化学部)

#### 【大会に関する問い合わせ】

東海大学 高尾 将幸  
〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1  
東海大学体育学部  
TEL: 0463-58-1211(代表)  
Email: [jsss31th@gmail.com](mailto:jsss31th@gmail.com)

(なるべく電話ではなく、メールでの問い合わせをお願いします。その際には件名に【スポーツ社会学会第31回大会】とお入れください)

以上

## ◆学会大会における各種委員会企画のご案内

### 1) 研究委員会

#### 【研究委員会企画】

#### 「オリンピック・パラリンピックをめぐる「理念」と「現実」の間で」

日時：2022年3月20日（日）13:30～16:00

会場：2号館・2N-101 教室

東京2020オリンピック・パラリンピック（以下、「東京2020大会」）は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、近代オリンピック史上初となる1年の延期を経て開催された。大会後に実施された各種世論調査では東京2020大会を開催したことに対して肯定的に評価する人が多数派を占めたものの、大会の延期は結果的にオリンピック・パラリンピックのあり方を問い直す機会となった。すなわち、メディアなどを通じて国際オリンピック委員会（IOC）や東京2020大会組織委員会の体質、放映権ビジネスに代表される商業（主義）化された大会運営、オリンピックと政治との関係性などに対する批判が広く展開され、一部の専門家だけでなく多くの人々を巻き込む形でオリンピック・パラリンピックをめぐる諸問題が議論されることとなった。

こうして多くの問題を抱え、批判にさらされながらも、オリンピック・パラリンピックはなぜここまで生きながらえてきたのだろうか。それは、オリンピック・パラリンピックが様々な「理念」を掲げて開催される希少なスポーツイベントだからであろう。たとえばIOCはオリンピック憲章の中で、オリンピズムの目的を「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進」と定めるとともに、IOCの使命と役割のひとつとして「オリンピック・ムーブメントに影響を及ぼす、いかなる形態の差別にも反対し、行動する」ことを謳っている。同様に、国際パラリンピック委員会（IPC）は、「パラスポーツを通じたインクルーシブな社会創出」を組織の活動を支えるビジョンとして打ち出している。さらに、今回の東京2020大会が、大会の基本コンセプトのひとつとして、「多様性と調和」を掲げていたことは記憶に新しい。

一方で、組織委員長だった森喜朗氏による「女性蔑視」発言の例を待たず、オリンピック・パラリンピックの「現実」はそれらが追い求める「理念」とはほど遠いとの指摘もある。実際、東京2020大会でもSNS上でのアスリートに対する誹謗中傷がかつてないほど巻き起こり、トランスジェンダーのアスリートの出場に対して否定的な意見もみられた。また、義足のアスリート、マルクス・レーム選手が望んでいたオリンピック出場は叶わなかった。そもそも、オリンピック・パラリンピックから「排除」されている人々も存在するし、スポーツ界の「外」に目を向けても多様性を尊重する社会や共生社会が実現されているとは到底言い難い。

とはいえ、東京2020大会をめぐるっては、組織委員会主導のもと、「ダイバーシティ&インクルージョン」を実現することを目指した様々な活動（「アクション」）が展開されたのも事実である。また、パラリンピックは試合中継時間の長さもさることながら、関連番組や特集記事など各メディアにおいて数多く取り上げられた。加えて、日本全国では、「ホストタウン」や「共生社会ホストタウン」となった自治体において、異文化理解や「心のバリアフリー」を目指す取り組みが進められた。

こうした活動や報道、取り組みを支えた人々は、オリンピック・パラリンピックが追求する「理念」と突きつけられる「現実」の間で、どのように東京2020大会と向きあってきたのだろうか。本シンポジウムでは、そうした方々にその「経験」や「葛藤」を共有していただきながら、イデオロギー批判に留まらない、オリンピック・パラリンピックのスポーツ社会学的研究の方向性を模索してみたい

なお、登壇者については調整中であり、決定次第、大会ホームページ等で周知する予定である。

## 【学生企画シンポジウム】

### 「コロナ禍（新型コロナウイルス感染拡大下）における社会調査」

日 時： 2022年3月19日（土） 10:30～11:40

会 場： 14号館・14-202教室

従来、社会学の手法は量的手法と質的手法に大別されてきた。本シンポジウムでは、それぞれの手法を用いて成果を上げている研究者を招き、コロナ禍において社会調査にどのような問題が生じたのかを振り返りつつ議論する。

今回のテーマは、質的手法を用いている世話人の中で、コロナ禍において「調査地に赴く困難をどう考えるのか」という問題意識が共有されたことから生じた。人との物理的接触が制限される状況において、修士論文や博士論文をいかに書くか、壁に突き当たっていた学生会員も多いのではないかと。

一方で、『スポーツ社会学研究』第29巻第1号の特集で「社会調査のトライアングレーション」が取り上げられたことなどからも、量・質双方を踏まえた議論をする必要があると考えられた。そこで、量的手法においてもコロナ禍の影響がどのように出ているのか（あるいは出ていないのか）を把握したい。

また、上記学会誌の特集においては、秋吉（2021）のレビューで近年の研究手法の偏りが指摘されている。これを踏まえ、コロナ禍の社会調査を振り返ることを通して、今後のスポーツ社会学における手法及び方法論をどのように考える必要があるのか、若手研究者が議論する機会を提供したい。

付け加えておくと、便宜的に量・質という区分をしたが、文献調査やメディア分析がスポーツ社会学において成果を上げてきたこともまた事実だろう。登壇者・世話人も含めた参加者が、それぞれの採用する手法と他の手法の方法論的な違いや関係性への認識を深め、それらをどう接続していけるのかを発展的に議論する機会となれば幸いである。

司 会： 学生フォーラム世話人

菅原大志（東北大学大学院）

小石川聖（早稲田大学大学院）

宮澤優士（筑波大学大学院）

話題提供者：調整中※

※詳細が決まりましたら、学会大会HP等でご紹介いたします。

## 2) 大会実行委員会

### 【大会実行委員会企画】

#### 「パラリンピックを学際的に紐解く」(公開企画)

日 時 : 2022年3月19日(土) 15:20~16:50

会 場 : 2号館・2N-101 教室

2021年8月24日から9月5日まで、東京2020パラリンピック競技大会(以下、東京2020)が開催された。原則無観客であったものの、NHKは過去最長時間の放送を行い、民放各社についても生中継を実施し、関連番組を多く制作する等をしたことから、パラリンピアンたちのパフォーマンスに魅了された人も少なくないのではないかと。メダル獲得数が過去2番目に多いことも踏まえると、今後は競技力向上もさることながら、わが国でパラリンピックを含めた障がい者スポーツ全般に興味・関心を持つ人が増え、「みる」や「支える」といった形での普及も期待される。そしてそのことが共生社会の実現に何らかの形で繋がるためには、何が求められるのかという議論に真剣に取り組むフェーズに、私たちは差し掛かっているように思われる。

そこで、パラリンピック関係者(演者は調整中)に、東京2020から垣間見えたパラリンピックの現状と課題、ならびにその魅力を語ってもらう。また、田中彰吾先生には、現象学的身体論の立場から、パラリンピック並びに障がい者スポーツがひろく、学問的な論点を解説していただく。そして、障がいのある児童・生徒が日常的なスポーツ実践に楽しむために必要な要因の研究をされている指定討論者の内田匡輔先生には、実践と学術を交えた議論の深掘りをしてもらい、パラリンピックを学際的に紐解いていくことを目指す。加えて、大学による社会貢献/地域貢献という実践的観点からも、障がい者スポーツの課題と可能性について問題提起していただく予定である。

なお、本企画は公開企画とする予定である。スポーツ関係者のみならず、一般の方々にも公開することで、多様なまなざしを含めることができる。また、パラリンピックに関する議論を一過性で終わらせず、持続的な議論の発展に寄与する企画としたい。

司 会 : 秋吉遼子 (東海大学)

発表者 : 田中彰吾 (東海大学)

パラリンピック関係者 (調整中) ※

指定討論者 : 内田匡輔 (東海大学)

※詳細が決まりましたら、学会大会HP等でご紹介いたします。

以上